



とびっくす No.80

(本誌はホームページでもご覧いただけます。http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/)

～流れ藻の大量漂着！～

流れ藻の大量漂着

5月上旬以降、県西部や県東部の島根半島の各地で海岸に大量の海藻が漂着しているとの情報が漁業関係者や一般市民から県水産事務所に寄せられました。このため水産事務所の職員が島根半島の各現場を回って調査したところ、大量の海藻が各地の海岸一帯に漂流、漂着しているのが確認されました(写真1)。また、水産技術センターが5月下旬に松江市島根町沖泊地区において行った藻場調査の際にも、まとまった量の海藻が調査区域内に漂流・堆積する様子が観察されました(写真2)。



写真1 漂着した海藻 (出雲市大社町の稲佐の浜)
画像提供：株式会社中筋組

種類は？どこから来たの？

漂着海藻を観察したところ、外部形態(写真3)は一見アカモクに似ているものの種の元となる生殖器床の形状が通常のアカモクと異なること(写真4:先端に葉状体がある)から国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所に画像を送り調べてもらいました。その結果、漂着した海藻はアカモクであり、その劣化具合や流れ藻として長期間漂流するアカモクに特異的に見られる特徴(前述の生殖器床)があることから、近年、沖縄本島や南西諸島各地に大量に打ち上がっているアカモクと同じタイプのものである可能性があるとの見解でした。



写真2 漂流する海藻 (松江市島根町沖泊地区)

今回漂着したアカモクの正確な発生源は不明ですが、前述の見解から推察すると少なくとも県内のものではなく、かなり遠方である可能性が高いと考えられます。この「漂流アカモク」は海岸に打ち上がるだ

けでなく、島根半島の各地では定置網に大量に入網し、その除去作業に労力がかかるため操業に支障があり、中には網に堆積した海藻の重みで垣網が破網する定置網もあり大きな被害も出ています。漂着した海藻は畑の肥料として有効利用もできますが、量が多すぎて処分しきれないのが現状のようです。

水産関係先への聞き取りから判断すると 25 日現在、島根半島では引き続き「漂流アカモク」の大量漂着が継続しているものの県西部では漂着のピークを過ぎたと考えられました。また、隠岐地区や隣県の山口県では大量漂着の報告は現時点では確認されていないようでした。

この「漂流アカモク」の大量漂着は平成 27 年以降継続した現象であり、特に平成 27 年はその量が多く、東シナ海から日本海の各地で観察されました。この時、県西部では海底に沈んだものが底曳き網に大量に入網し、操業に支障をきたして大きな問題となりました。

流れ藻の役割 やっかいもの？大事なもの？

流れ藻とは、主にホンダワラ類の海藻が海底から離れて海の表面を漂っている状態のものを言います。ホンダワラ類には気泡(空気の袋)があるため海の表面に浮くことができ、今回のように海流に乗って長距離を浮遊して移動することができるのです。海底から離れて沖合域を漂う流れ藻は、ブリやメダイの幼稚魚の保育場およびトビウオやサヨリの産卵場など 150 種類以上の魚類の生活の場として利用されており、沿岸域の藻場と同じように海の生態系において重要な役割を果たしています。今回のように沿岸域に大量に流れついた場合は、漁業や船の航行に支障をきたしたり、海岸の景観を損なったりして私たちの生活にとってやっかいなものとなりますが、海の生態系には好影響もあるものなのです。

近年、日本の沿岸域では近年の水温上昇の影響等により藻場が減少傾向にあり、それに応じて流れ藻も減少していると考えられます。そのため現在、水産技術センターでは藻場のモニタリング調査を実施中であり、藻場の現況調査や藻場を増やすための取り組みを行っています。一方、近年の状況から判断すると日本より南西の海域では、海の環境変化等により逆に一部の種類の海藻が増加しているのかもしれませんが、藻場をはじめとする海の生態系の変化により今回のような特異的な現象が今後も起こる可能性があることから、漁業関係者の皆様には地先の海の状況について注意して見て頂き、何か海の異変を発見された場合は、水産技術センターまで連絡をお願いします。



写真 3 漂着したアカモク



写真 4 漂着したアカモクの生殖器床
(先端に葉状体があるのが特徴的)

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079
ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>
E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp